

2018年度 授業評価アンケートの分析結果及び考察について

千葉経済大学 FD 委員会
株式会社 教育ソフトウェア

【回答率推移】

- アンケート回答率については、昨年度に比べて 0.56 ポイント上がっている。有効回答数は昨年度から約 490 名増えている。

実施年度	総履修者数	総回答者数	回答率	差分
2018年度 (H30)	7,824名	5,452名	69.68%	+0.56
2017年度 (H29)	7,180名	4,963名	69.12%	+3.57
2016年度 (H28)	6,616名	4,337名	65.55%	-0.36

※回答率は、有効回答者数÷実施科目履修者数にて算出。

【全体考察】

- 相関関係表を見てみると、Q10-a.「あなたは、この授業科目に関して、授業時間以外に1回あたりどのくらい自主学習を行いましたか」とQ10-b.「そのうち、課題についてはどのくらい時間をかけましたか」は、もっとも強い相関(0.793)があった。課題にかける時間が長いほど授業時間外での自主学習時間が長くなるのが分かる。
- また、Q5.「この授業の教授法はわかりやすいものでしたか」とQ6-a.「この授業では、板書(黒板の文字・図)、教科書(参考書)、配布資料、視聴覚教材(ビデオ、パソコン等)、その他は授業を理解するのに役立ちましたか」は、強い相関(0.764)があった。学生が感じる教授法のわかりやすさには、授業内での資料等の充実度が強く影響していることが分かる。
- Q1.「あなたがこの授業を履修した理由は何ですか」は、いずれの項目も昨年と比べて回答率が±5%以内と、ほぼ横ばいで推移した。「必修科目だから」の回答率が39.8%と最も高く、次点は「内容に興味があったから」で36.9%であった。
- Q9.「あなたは、この授業にどの程度出席しましたか」は、<すべて出席>と<8割~9割程度>の高出席割合の合計は、昨年の79.6%に対し、今年は81.4%と1.8ポイント上昇した。
- Q10-a.「あなたは、この授業に関して、授業時間以外に1回あたりどのくらい自主学習を行いましたか」は、<まったくしていない>と回答した割合は、40.9%で、昨年度から1.4ポイント上昇し、自主学習をまったくしていない学生の割合が増えた。また、自主学習を行ったと回答した者のうち、もっとも回答率が高かったのは、<1時間未満>で34.2%であった。
- 全体として、自主学習0分の学生の割合は若干増えた。一方で総合的満足度は、<たいへん満足している>および<どちらかといえば満足している>の合計では、昨年度67.1%であった肯定回答率が69.0%となり、昨年比で1.9ポイント上昇している。次年度に向けては、学習内容への興味が深まるアプローチを積極的にかけ、総合的な満足度がより上がるようにするとともに、自発的な学習時間の減少を抑えられるような対策を講じていくことが求められる。

以上